

【来賓挨拶】

登壇者(敬称略) ※肩書はイベント開 催当時のもの	遠藤 利明 自由民主党 衆議院議員／公益財団法人日本スポーツ協会会長
---------------------------------	------------------------------------

ご紹介いただきました遠藤利明です。現在、JSPO(公益財団法人日本スポーツ協会)の会長を仰せつかっておりますが、国会ではスポーツ議員連盟の会長代行をさせていただいております。2 日前にも、このスポーツ議員連盟の中に、先ほど話がありましたスポーツの不正防止、あるいは審判やアスリートをそうした誘惑から守るための法律を作ろうと、PT(プロジェクトチーム)を作ることが決まりまして、前法務大臣の山下貴司先生に座長をお務めいただくことになりました。

こうした活動を、国会を挙げて進めておりますが、もともと日本のスポーツは 2011 年に大きく変えることができました。それまで日本のスポーツは、スポーツよりも体育政策が中心で、幅広い「スポーツ」という感覚はありませんでした。その時、今日もこの会場にいらしている立憲民主党の笠先生をはじめ、多くの国会議員の皆さんと一緒にスポーツ基本法を成立させ、まさに体育からスポーツへと大きく転換をさせることができました。

そして、その2年後には、この法律の中に書き込んだスポーツ庁を設置することができました。その後も多くの国際競技大会、ラグビーワールドカップもありましたし、オリンピック、パラリンピックなどを通じ、大会の運営や、そのための選手強化もこの法律に基づいて進めてまいりました。

こうした活動をしながら、オリンピック、パラリンピックが終わり、次に何をすべきかという議論をしている時に、一つはスポーツビジネスの展開を考えようという話になりました。スポーツにビジネスとして取り組んで、そのビジネスで得た利益をスポーツ界に還元してもらう仕組みに関する法律ができないだろうかということです。

同時に、レガシーとしての健康長寿社会、障害のある皆さんも一緒になった共生社会、こうした仕組みづくりにも取り組まなければなりません。そのほか、学校の部活動が成り立ちにくいという状況の中で、部活と地域スポーツを一体化することはできないかという議論にもなりました。今回、補正予算の中で 82 億円を設けることができましたが、こうした地域スポーツの展開を進める一方、ドーピングなどのインテグリティをしっかりと担保することも必要です。

さらに、障害者のスポーツを、もっと振興させなければいけません。また、e スポーツの問題もあります。e スポーツの持つ力を生かしていくには、さまざまなことをしっかりと進めていかなければならないというようなことを議論した上で、今年の 6 月、スポーツ基本法を改正し、改正スポーツ基本法を作ることになりました。

法律をどのように作るのか、その進め方も考えました。これまでスポーツ界は、各団体が事業はしますが、政策としての捉え方がはっきりしていませんでした。そこで数年前、JOC の当時

の山下会長、そして JSPO の伊藤会長、また、パラ協会の森会長と相計らって、日本スポーツ政策推進機構、通称 NSPC という組織を作らせていただき、ここで民間団体としてのスポーツ界の意見を集約する形で進めてまいりました。今回の改正スポーツ基本法もまさにこの NSPC で議論していただき、国会の中では議員連盟と協力することで、今回の法律改正につなげることができました。

これからの課題は、やはり不正は駄目だよねという話になると思います。国民の皆さんに感動を得てもらうスポーツを広めていくには、不正防止、そして審判やアスリートをそうした誘惑から守る形が必要だということで、今回その法律を作るためのプロジェクトチームを作らせていただきました。

もう 1 点は、財源の問題です。これについても、いろいろな議論をさせていただきました。先ほどもお話しがありましたように、経費から投資へと変えていく仕組みを、何とか法律にできないかと考えて、先日は NSPC (日本スポーツ政策推進機構) の中に検討チームを作り、さらに NSPC の中にスポーツ支援経営者会議というものを作って、スポーツに関心を持っている企業の皆さんに集まっていたいて、そうした皆さんの総意を得て、経費から投資へと変えるスポーツ産業振興法をぜひ作っていきたいと思っております。

同時に、スポーツくじの活用をもっとできないかなとも考えておりますが、そうすると、なおさら不正防止をしっかりやっていく必要はあります。先ほど山口社長からお話がありましたように、ベッティングは日本では用いません。世界の中ではベッティングがありますので、日本でもどうですかという声はありますが、日本の法律ではできませんし、われわれスポーツ界としては、取り組む考えはありません。2 日前のプロジェクトチーム設立の時にも、多くの皆さんに議論をしていただいて、日本ではスポーツベッティングはしないということを、全会一致でまとめさせていただきました。

そうしたことを踏まえて進めていくわけですが、こうしたエコシステム協議会のような団体からさまざまな意見を出していただいて、世界各国の話題、あるいは法律、さきほどご紹介いただいたマコリン条約などもしっかり踏まえ、NSPC とスポーツ議員連盟が連携し、こうした施策を進めていきたいと思っております。どうか皆さま、スポーツは大きな広がりを持って社会的に大きく貢献できる、そして大きな産業にできるという考えのもと、ご尽力いただければありがたいと思っております。